

平成30年度 芸術科「書道 I」 SYLLABUS

| | | | |
|-----|---------------------------|----------|------------------|
| 単位数 | 2単位 | 学科・学年・学級 | 普通科 第2学年 進学文系クラス |
| 教科書 | 新編 書道 I (書 I 307) 教育出版 | 副教材等 | 改定 基本ペン習字 (教育図書) |

1. 学習の到達目標

- ① 正しく整えて読みやすい文字を書けるようにする。(硬筆)
 ② 様々な古典の臨書により、様々な表現方法を学び、それらを生かした作品を制作できるようにする。(毛筆)
 ③ 様々な作品の時代と歴史的 위치を理解する。

2. 学習の計画

| 学期 | 月 | 単元名 | 学習事項 | 学習内容や活用 | 評価の材料等 | |
|--------|--------|--|--|--|--|---|
| 前 期 | 4 | 書の芸術性 書の美を求めて ペン習字 | 書体の変遷(漢字) 書写と書道 ペン習字(硬筆)の学習 基本点画 間架結構法 筆順 部首 | ・自分たちの身近にある文字の歴史を考え書体の変遷を学ぶ ・書写と書道の違いを理解する。 ・ペン習字(硬筆)を通して文字の基本として点画・部首・構成などの重要性を理解させ、丁寧に書く習慣を身に付けさせる。 ・基本点画・間架結構法・筆順・部首の理解 1起筆・送筆・収筆 2横画 3収筆の形(はね・はらい・とめ) 4送筆の形(まがり・そり・おれ) 5右払い(方向) 6左払い(方向) 7点(方向・長短) | プリント プリント プリント 基本ペン習字 プリント プリント | |
| | 5 | ペン習字 用具・用材 姿勢・執筆 | 書体の変遷(仮名) 用具・用材の種類 姿勢・執筆について | 楷書の基本 ・仮名の正しい形と字源を理解させる。 ・文房四宝についての理解させる。 ・正しい姿勢・執筆を知る。 | 基本ペン習字 基本ペン習字 プリント プリント プリント | |
| | 6 | 楷書の学習 楷書の基本を知ろう | 古典の臨書 九成宮醜泉銘 孔子廟堂碑 | ・臨書の種類を知り、その意義を確認する。 ・毛筆による書表現の多様性を理解し、これを積極的に鑑賞する態度を身につける ・九成宮醜泉銘の特徴と書法を理解し、楷書の基本的な用筆を習得する。 作品理解、臨書による古典学習の基本を身につける。(欧法等) | 臨書作品 臨書作品 | |
| | 7 | 軽快と重厚 | 雁塔聖教序 顔氏家廟碑 | ・雁塔聖教序の特徴と書法を理解し、その表現方法を習得する。 作品理解、臨書による古典学習の基本を身につける。(褚法等) ・顔氏家廟碑の特徴と書法を理解し、その表現方法を習得する。 作品理解、臨書による古典学習の基本を身につける。(顔法等) | 臨書作品 臨書作品 第二回定期考査 | |
| | | 方勢と円勢 | 牛欄造像記・鄭羲下碑 | ・両古典を比較、特徴と書法を理解し、その表現方法を習得する。 作品理解、臨書による古典学習の基本を身につける。(方勢・円勢等) | 臨書作品 | |
| | 9 | 小字の書の鑑賞と臨書 ペン習字 行書の学習 さまざまな行書 | 蘇慈墓誌銘・賢愚教残卷(大聖武) 楷書と行書の比較 行書の特徴 | ・小楷の書法の応用により、日常書写能力の向上をはかる。 作品理解、臨書により小楷の書法を理解し基本的な用筆法を習得する。 行書の基本 ・行書の特徴を知り、行書が芸術の書、実用の書の両方で広く用いられていることを理解する。 行書の表現の多様性にふれ、行書の成立について、正しく理解する。 | 臨書作品 ペン習字の基本 楷書・行書比較作品 | |
| | 後 期 | 10 | 行書の基本を知ろう | 蘭亭序 風信帖 争坐位稿 日本の行書 王羲之を学んだ名家 | 蘭亭序の鑑賞と臨書をとおして、行書の基本的な表現技法を習得する。 規範となる行書を生み出した王羲之の書道史上の重要性を理解する。 風信帖の鑑賞と臨書をとおして平安時代初期の書が、当時の中国の影響を理解する。 風信帖の変化に富み、格調の高い技法を習得する。 争坐位稿の鑑賞と臨書をとおして王羲之と併称される顔真卿の行書の流暢かつ重厚な表現技法を習得する。 三筆・三跡とおして平安時代の書の特徴を理解する。 王羲之の行書の影響を受けた名家の書を臨書する。 草書の基本 | 臨書作品 臨書作品 臨書作品 臨書作品 ペン習字の基本 |
| | | 11 | 篆書の学習 隸書の学習 草書の学習 | 泰山刻石 曹全碑・居延漢簡 書譜 | 泰山刻石を臨書することにより、小篆の筆使いの特徴を理解する。 基本的な篆書の学習により、篆書の特徴を理解し、用筆・運筆・結構法を習得する。 隸書に興味や関心を持ち、歴史的 위치付けを理解し、表現力を高める。 基本的な隸書の学習により、隸書の特徴を理解し、用筆・運筆・結構法を習得する。 書譜を臨書することにより、草書の筆使いの特徴を理解する。 | 臨書作品 臨書作品 |

| | | | | | |
|--------|----|--------------------------|--------------------------------|--|---------------------------------|
| 後 期 | 12 | 漢字の書の制作 ペン習字 仮名の学習 | 楷書・行書 平仮名・変体仮名 | 基本的な草書を学習することにより、草書の特徴を理解する。 主体的・意欲的に制作し、表現力を身に着け楽しく制作する。 仮名の基本 用具・用材・姿勢・執筆などの基本的な事項を身につける。 仮名の成立過程・仮名の種類を理解する。 変体仮名に関心を持ち、その効用を理解する。 | 臨書作品 創作作品 ペン習字の基本 |
| | 1 | | 連綿 蓬萊切 粘葉本和漢朗詠集・近衛本和漢朗詠集 | 連綿による流動美を理解し、その技法を身につける。 古典の学習により、仮名の技法を身につける。 同じ和漢朗詠集の作品の表現の違いを理解する。 | 臨書作品 第四回定期考査 臨書作品 臨書作品 |
| | | | 高野切三種 三色紙 | 名筆をとおして日本の伝統的な書の美を感じとる。 基本的な造形原理を身につけ、創造的な表現につなげる。 仮名の書の技法を生かし、自己を表現する喜びを味わう。 | 臨書作品 臨書作品 創作作品 |
| | 2 | ペン習字 漢字仮名交じりの書 | 意図に応じた表現 自分の表現を目指して | 応用編 一般生活の書式の書き方 漢字と仮名の調和の重要性を確認し、そのための工夫について考える。 活動を振り返り、今後の課題を見つけ出す。 | ペン習字の基本 創作作品 |
| | | | 名筆に学ぶ | 用具・用材と表現効果が密接に関係していることを理解し、表現に工夫をする。 用具・運筆の違いによる多様な線質を理解し、表現を工夫する。 文字の大小、字形、配置、書体などを工夫し、表現を試みる。 | 創作作品 |
| | 3 | | 感動や思いを表現しよう | 明確な制作意図をもち、主体的・意欲的に表現を行う。 名筆の学習を応用して、漢字と仮名を調和させながら、ねらいにそった表現をする。 言葉と表現の関わり方、表現の工夫の方法を味わう。 | 創作作品 創作作品 第五回定期考査 |

3. 評価の観点

| | |
|----------|----------------------------------|
| 関心・意欲・態度 | 授業に取り組む態度、提出物の期日をしっかりと守ることを重視する。 |
| | |
| | |
| 知識・理解 | 授業で学んだ文字の歴史、古典作品などの歴史的位置を理解する。 |

4. 評価法

硬筆においては基本点画をしっかりと理解し、プリント・基本ペン習字を、毛筆においては臨書作品・創作作品を評価します。また、その時に学んだ知識等を定期考査において出題します。

5. 担当者からのメッセージ

日本で一般生活で使用されている文字の歴史を知識として理解し、その時代の歴史と関連させる。また、色々な表現法を学び一般生活において、正しく整えて読みやすい文字を書くように習慣をつけさせたい。